

第4章 プロジェクト事業

プロジェクト事業 ー目指す姿の実現のためにー

目指すまち・図書館の姿を実現するために早期の取り組みや成果向上が求められる事業は、図書館サービス充実プロジェクトに位置付けて、重点的に進めていきます。

1 まちじゅう読書推進プロジェクト

現状と課題

現状

- ①図書館が、日常的に気軽に利用できる生涯学習施設として機能しています。
- ②市民の余暇時間が拡大しています。
- ③本の貸出を目的とせず、図書館に「滞在」している利用者が増えています。
- ④図書館に関する市民アンケート調査では、今後重点的に進めるべき機能・サービスとして、「大人のための環境提供」、「子どものための環境提供」などが多くなっています。
- ⑤市民が集団で学習活動を行うことのできる施設・設備が十分とはいえません。
- ⑥「ワーク・ライフ・バランス」を実現する職場・社会環境が求められています。
- ⑦「働き方改革」の中では、女性の活躍や長時間労働の是正が大きな柱とされています。
- ⑧「日本一 本を読むまちづくり」の実現が求められています。

課題

- ①市民の「場」(居場所)としての図書館の機能を充実する必要があります。
- ②長時間滞在できる居心地の良い雰囲気づくりや施設・設備が必要です。
- ③図書館に市民が自主的・自発的に集団学習ができる部屋を整備する必要があります。
- ④人と人が出会い、交流する場所としての期待に応える必要があります。
- ⑤再就職、起業、キャリアアップに向けた取り組みや男性の家事分担・子育て参加、自由な時間の増加など余暇の過ごし方が多様化しており、市民の生活の変化に対応する必要があります。
- ⑥家庭や学校、地域での読書活動を振興し、すべての市民が本に触れ、親しむことのできる読書のまちづくりにつながる取り組みが必要です。

目標が達成された姿

市民が図書館をサードプレイス(第3の居場所)として利用するとともに、まちなかで本と出会う機会が増えています。

目指す方向

市民の憩いの場、潤いの場として、快適で居心地がよい図書館となるよう環境の整備を行うとともにまちなかの読書活動を活発にします。

成果指標と数値目標

指標1 中央図書館共同利用スペース利用率

| 現状値 | 目標値 | |
|--------|----------------|----------------|
| 平成28年度 | 平成32年度(2020年度) | 平成34年度(2022年度) |
| 0% | 10% | 20% |

指標2 民間事業者との年間連携事業実施件数

| 現状値 | 目標値 | |
|--------|----------------|----------------|
| 平成28年度 | 平成32年度(2020年度) | 平成34年度(2022年度) |
| 1件 | 10件 | 15件 |

サービス・事業の内容

○サードプレイスとしての環境づくり

(1) くつろげる落ち着いた場所、快適な環境の提供

図書館という空間の魅力を向上させ、滞在型図書館への移行を進めていきます。

①館内環境の整備・充実

- ・ゆったりとくつろぎながら読書や調べ物等が行える環境の整備
- ・座席数の増加

②飲料持ち込み可能エリアの確保

誰もが気軽に飲み物を飲みながら雑誌・新聞などを楽しめる場所を提供します。

(2) 市民の交流や学習の場としての施設、設備の整備

①中央図書館にグループでの学習や自習室としても活用可能な共同利用スペースを整備します。

具体的な活用例

- ・ワークショップ、ミニセミナー
- ・読書会
- ・図書館ボランティア、図書館友の会の活動
- ・個人の自主学习

②中央図書館内のエントランスエリアに仲間同士で、あるいは図書館の本をきっかけとして、会話や交流を図ることのできる市民の出会いやコミュニティ形成のためのスペースを新たに設けます。

(3) 地域の人材活用・育成の推進

図書館を活用した活動をより活発にするため、講演、講座、ワークショップの講師として地域の人材を活用するとともに、講師や図書館ボランティアのリーダーとなる人材の育成にも取り組みます。

○まちじゅう図書館

(1) カフェ・書店等の民間事業者と連携した取り組みの推進

すべての市民が本に触れ、親しむことのできる読書のまちづくりにつながる取り組みとして民間事業者と連携した事業を実施します。

(連携した取り組みの具体例)

- ・本が読めるカフェマップづくり
- ・書店でのビブリオバトル
- ・図書館でのカフェ店員によるコーヒーの入れ方講座
- ・カフェ、金融機関、商店街等の民間事業者への団体貸出 など

2 蔵書充実プロジェクト

現状と課題

現状

- ①図書館に関する市民アンケート調査では、蔵書構成に対して 44.9%の人が満足・やや満足であり、不満のある人は、13.0%となっています。また、図書館が今後重点的に進めて行く必要のある機能・サービスでは、蔵書の充実が上位となっており、充実すべきと考える資料では、趣味・教養のための資料、実用書、小説等が多くなっています。
- ②新館開館で一時的に大量に購入した資料が古くなっています。
- ③日本では年間 8 万点余りの新刊書が出版されています。(日本の統計 2017)
- ④インターネットの普及等による情報化社会が進展しています。
- ⑤「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成 24 年 12 月)において、図書館資料に電磁的記録を含むことや郷土資料等の電子化等に関する規定が追加されました。
- ⑥スマートフォンやタブレット端末などの普及に伴い、電子出版市場が拡大していくと言われています。
- ⑦障害者差別解消法が施行されました。(平成 28 年 4 月)

課題

- ①新鮮で魅力ある書架を形成していく必要があります。
- ②国、県、中央館、拠点館、地域館などの機能や地域特性に応じて資料収集の役割について分担を考慮する必要があります。
- ③市民アンケートでニーズの高かった趣味・教養のための資料、実用書、小説等や利用の多い児童書、絵本などに重点を置き計画的に資料を購入する必要があります。
- ④電子書籍をはじめとする電子媒体の図書館資料についても積極的に収集し、提供していく必要があります。
- ⑤電子媒体の資料が利用できる設備を整えるとともに、利用の便利さを周知していく必要があります。
- ⑥目録などの資料に関する情報を市民に提供するだけでなく、地域資料そのものをデジタル化して提供することが必要です。
- ⑦障がい者への「合理的な配慮」が必要とされています。

目標が達成された姿

より新鮮で魅力ある資料が利用されています。

目指す方向

出版された資料のうち市民ニーズや利用が多い資料を重点的に収集し、提供するとともに電子媒体の図書館資料の活用を促進します。

成果指標と数値目標

指標 1 年間図書館資料購入点数

| 現状値 | 目標値 | |
|----------------------|-------------------|-------------------|
| | 平成 32 年度(2020 年度) | 平成 34 年度(2022 年度) |
| 平成 28 年度 30,137 点 | 40,000 点 | 47,000 点 |

指標 2 地域資料の年間デジタル化件数

| 現状値 | 目標値 | |
|-----------------|-------------------|-------------------|
| | 平成 32 年度(2020 年度) | 平成 34 年度(2022 年度) |
| 平成 28 年度 0 件 | 50 件 | 200 件 |

サービス・事業の内容

(1) 資料収集手段の多様化、分担収集の体制強化

多様な資料入手ルートの確保を行うとともに市立図書館全体での分担収集の体制強化に取り組みます。

- ①利用者の関心の高い趣味・教養のための資料、実用書、小説、利用の多い絵本、児童書等を充実します。
- ②地域資料等の保存すべき資料を除いて、蔵書を概ね15年間で更新することを目指します。

(2) 電子図書館サービスの推進

インターネット等を通じて電子媒体の資料を利用できる図書館＝電子図書館を目指した取り組みを進めます。

①電子書籍の導入

- ・図書館向けに出版された電子書籍の導入について研究・検討します。あわせて視覚障がい者や弱視者の電子書籍の利用のあり方についても研究します。

②電子媒体の図書館資料の作成・提供

・地域資料のデジタル化

紙媒体等の地域資料の劣化を防ぐとともに利用者の要求に対応できるように、地域資料のデジタル化を進めます。また、デジタル化した資料は、キーワードや主題、年代など様々な条件で検索できるようデータベース化します。

(デジタル化する資料の具体例)

市史、地域史、郷土人物資料、古地図、パンフレット、古写真 等

デジタル化が必要な資料の範囲は、山口市立図書館協議会の意見や市民のニーズ等を踏まえ、検討を行います。

- ・図書館で開催する講座・イベント等の様子を撮影した動画を作成し、インターネット上で公開・提供するなど、図書館が独自に作成・提供するデジタルコンテンツの充実に努めます。

③電子書籍の普及・活用

- ・情報リテラシー講座や図書館活用講座、商用データベース活用講座の実施により普及・活用を進めます。

3 地域資料保存・活用推進プロジェクト

現状と課題

現状

- ① 山口市及び山口県内において、多くの地域に関する出版物が刊行されています。
- ② 地域資料には、過去や現在のまちの姿が記録されています。
- ③ 広報紙、統計資料、議会議事録や条例集など、地方行政、地方議会に関連した資料も地方行政資料として貴重です。
- ④ 各図書館の所蔵している地域資料は、まちづくりにおいても欠かせない基礎的な資料となっています。
- ⑤ 収集できている地域資料は、十分とはいえません。
- ⑥ 収集した資料の情報発信、活用が図られていません。
- ⑦ 貴重な地域資料の劣化が進んでいます。
- ⑧ 合併後の新市のまちの姿を示した資料が十分ではありません。
- ⑨ 紙媒体による資料の発行が少なくなってきています。
- ⑩ 「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年12月）において、図書館資料に電磁的記録を含むことや郷土資料等の電子化等に関する規定が追加されました。
- ⑪ 地方創生や地域活性化を図るため、職員自ら主体的に、政策の企画立案を行う機会が増えています。
- ⑫ 政策の評価に対する説明責任能力に優れた人材の育成が求められています。
- ⑬ 図書館資料の中には、業務上の課題解決や政策立案に役立つ資料が豊富に蓄積されています。
- ⑭ 図書館が行政の各部局の情報発信の場として活用されていません。
- ⑮ 図書館の設置及び運営上の望ましい基準には、行政支援に関する項目が新たに設けられました。
- ⑯ ホームページ等への掲載のみで紙として発行されない行政資料が増えています。

課題

- ① 地域資料は、山口市立図書館の個性を作り出すことから、将来にわたって、あるいは遡って、網羅的に収集することが必要です。
- ② 網羅的に収集する方法をシステム化（体系化）する必要があります。
- ③ 収集した資料を、組織化する必要があります。
- ④ 地域資料をデジタル化するなど整理して、どのようなものが存在しているのか、情報を発信し、広く公開する必要があります。
- ⑤ まちのありのままの姿をアーカイブしていくことが必要です。
- ⑥ 山口市や県内他市町、県の各部局が刊行した行政資料を網羅的に収集する必要があります。
- ⑦ 資料を体系的に整理し、いつでも利用できるようにデータベース化する必要があります。
- ⑧ 各部局に資料を提供するという意識が欠かせません。
- ⑨ 各部局が業務で図書館サービスを利用するための仕組みを構築する必要があります。
- ⑩ 各部局に図書館のサービス・機能を周知する必要があります。

目標が達成された姿

市民が、必要なときに、何度でも、容易に地域資料を活用できています。

目指す方向

地域資料を積極的に収集、体系化し、広範囲に利用できるようにします。

成果指標と数値目標

指標1 地域資料の貸出点数

| 現状値 | 目標値 | |
|--------|----------------|----------------|
| 平成28年度 | 平成32年度(2020年度) | 平成34年度(2022年度) |
| 3,579点 | 4,000点 | 4,500点 |

指標2 行政部局からの年間相談受付件数

| 現状値 | 目標値 | |
|--------|----------------|----------------|
| 平成28年度 | 平成32年度(2020年度) | 平成34年度(2022年度) |
| 0件 | 50件 | 100件 |

○地域資料サービスの充実

(1) 地域資料の網羅的収集

地域資料に関する情報収集体制を整備することや新たな収集ルートを開拓することにより、地域資料の網羅的収集に取り組みます。

①情報収集体制の整備

- ・新聞記事や地域情報誌など多様なメディアを活用した情報収集
- ・古書店や地方出版社からの情報収集
古書目録、地方出版目録などの活用

②収集ルートの開拓

- ・図書館だより、図書館ホームページなど図書館の広報媒体を活用した積極的な寄贈の呼びかけ
- ・文化団体、経済団体、行政機関（県、市町）などへの積極的な働きかけ

③行政のホームページ上のみで公開されているボーンデジタル資料への対応

(2) 地域資料の提供と情報発信

収集した資料を様々な観点から編成し、データベース化すること等を通じて、地域資料の利用促進を図ります。

①収集資料に関する情報発信

- ・地域資料を活用した、地域に根ざしたテーマの企画展示の実施
- ・地域に関する調査や相談に対応したパスファインダーの作成と提供
- ・子どもの地域に関する調べ学習の課題に対応したパスファインダーの作成と提供

②収集資料のデータベース化と公開

- ・山口市に関する新聞や雑誌記事、市報等の総合的な記事索引を作成し、ホームページに公開することにより、山口市における過去や現在の出来事や、地域の身近な情報について、簡単に調べることができる検索システムの構築を進めます。

(3) 地域資料のデジタル化（再掲）

紙媒体等の地域資料の劣化を防ぐとともに利用者の要求に対応できるように、地域資料のデジタル化を進めます。また、デジタル化した資料は、キーワードや主題、年代など様々な条件で検索できるようデータベース化します。

（デジタル化する資料の具体例）

市史、地域史、郷土人物資料、古地図、パンフレット、古写真 等

デジタル化が必要な資料の範囲は、山口市立図書館協議会の意見や市民のニーズ等を踏まえ、検討を行います。

(4) 社会教育施設等との連携

中原中也記念館、歴史民俗資料館、小郡文化資料館などの社会教育施設をはじめとした多様な関係機関との連携について検討します。

- ・レファレンスに関する相互協力
- ・中原中也記念館からは中原中也に関する資料の刊行情報を収集するなど、それぞれの専門分野の情報を収集

(5) 収集方針の策定

地域資料の収集方針を策定します。詳細な手法、収集範囲については計画を別途策定します。

- ・中央館は、地域資料に関しては網羅的に収集
- ・地域館は、それぞれの地域にかかわりの深いものを中心に収集
- ・中央館において、山口市の刊行物は網羅的に収集し、国、県、他市町については、山口市とかかわりの深いものを中心に収集
- ・地域資料に関して分類や組織化の見直し

○行政支援サービスの推進

(1) 行政支援に役立つ資料の収集

- ① 行政部局の業務上の課題解決や政策立案に役立つ資料の収集
- ② 山口市が刊行した行政資料の網羅的な収集及び県内各市町、県の各部局が刊行した資料の重点的な収集
- ③ 市内のイベント、活動の様子などを広報するポスター、チラシなどの収集

(2) 各部局への資料の情報提供

- ① 庁内の各課に利用カードを作成し資料を配送するなど利用しやすい貸出体制の整備
- ② 図書館が契約する商用データベースの代行検索と情報提供
- ③ 相互貸借や文献複写サービスによる、他機関が所有する資料や情報の収集と提供

(3) レファレンスサービス

行政に関わる職員が、業務上に役立つ資料や情報源についての相談に応じます。また、各部局が定期購読している業界新聞、専門雑誌や加除資料等のリストを作成し、庁内で共有できる体制を整備するなど行政支援のためのレファレンスツールの整備にも取り組みます。

(4) 研修等の実施

職員を対象として、情報検索講座や図書館活用研修等を実施します。

(5) 図書館を窓口とした行政情報の発信

市のイベント、事案についての周知や関係部局と協力して市の施策と連動した企画展示を実施するなど、多くの来館者でにぎわう図書館を行政情報の発信の場として活用できるように体制を整備します。

4 市全域サービス充実プロジェクト

現状と課題

現状

- ①市域が広がり、図書館から離れている地域への十分な全域サービスができていません。
- ②各図書館、山口地域の地域交流センター、阿東地域の地域交流センター分館に配本サービスを行っています。(配本ポイント：図書館6、交流センター16、分館4)
- ③市立図書館の資料、市内の大学図書館(山口大学、山口県立大学、山口学芸大学、山口芸術短期大学)の資料を相互に返却できます。
- ④移動図書館(愛称「ぶっくん」)を2台体制で市内の39のサービスステーションを巡回しています。
- ⑤移動図書館は平成15年、平成23年に導入しています。
- ⑥図書館に関する市民アンケート調査の過去1年間によく利用した市立図書館では、地域交流センターへの配本が2.1%、移動図書館が0.9%となっています。
- ⑦移動図書館の利用状況

| | | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 |
|----------|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| サービスポイント | | 33 | 33 | 36 | 36 | 39 |
| 巡回日数 | | 214 | 215 | 250 | 258 | 257 |
| 通常 運行 | 利用人数 | 6,541 | 9,425 | 9,185 | 10,121 | 10,975 |
| | 貸出者数 | — | 6,429 | 6,683 | 6,883 | 7,200 |
| | 貸出冊数 | 27,118 | 27,344 | 27,619 | 27,761 | 29,053 |
| 臨時 運行 | 利用人数 | 133 | 1,776 | 1,365 | 2,266 | 1,532 |
| | 貸出者数 | — | 190 | 228 | 239 | 191 |
| | 貸出冊数 | 407 | 603 | 599 | 658 | 560 |

- ⑧民間事業者の物流システムが整備され、山口市全域をカバーしています。

課題

- ①徳地地域の配送サービスを検討する必要があります。
- ②市全域をカバーするサービスを展開する必要があります。
- ③移動図書館の効率的な運行が必要です。
- ④平成15年に導入した移動図書館の老朽化への対応が必要です。
- ⑤移動図書館のあり方を見直す時期となっています。

目標が達成された姿

市民が、どこに住んでいても、必要なときに、図書館サービスを活用しています。

目指す方向

公平に図書館サービスが利用できるように市全域サービスのあり方を見直します。

成果指標と数値目標

指標1 予約資料の受取場所

| 現状値 | 目標値 | |
|------|----------------|----------------|
| | 平成32年度(2020年度) | 平成34年度(2022年度) |
| 26カ所 | 30カ所 | 35カ所 |

指標2 地域館入館者数

| 現状値 | 目標値 | |
|----------|----------------|----------------|
| | 平成32年度(2020年度) | 平成34年度(2022年度) |
| 288,333人 | 300,000人 | 320,000人 |

サービス・事業の内容

(1) 地域館のサービスの充実

- ①阿東地域の交流センター分館への配本の状況を踏まえ、徳地地域の配本の実施を検討します。
- ②公共施設に加えて民間施設でも予約資料の受取が可能となるように、受取場所の拡充を検討します。
- ③来館のきっかけづくりのためのイベント・講座の充実を図ります。
- ④地域の読み聞かせサークル、読書会等の普及活動の支援を行います。
- ⑤図書館サービスの充実や運営への市民の参画を進めるため、図書館友の会の組織を全館に広げるための取り組みを進めます。

(2) 移動図書館の運行形態の見直し

来館が困難な高齢者や障がい者等に配慮し、医療施設、高齢者施設、障がい者施設、矯正施設等へ重点的に運行することや運行とあわせた出張おはなし会等の実施の検討を進めるほか、よりきめ細やかなサービスを実現するために移動図書館の運行形態等の見直しに取り組みます。

(3) 郵送などによる貸出の充実

- ①視覚障がい者への郵送貸出サービスの利用促進を図ります。
- ②図書館や地域交流センターなどに来館困難な方への宅配サービスの仕組みづくりについて研究します。

対象者の具体例

- ・身体の障がいにより図書館・地域交流センターに来館することが困難な人
- ・高齢等により図書館に来館することが困難な人
- ・妊娠、育児により図書館に来館することが困難な人

- ③高齢者施設への配送サービスの実施を検討します。また、配送にあわせた図書館ボランティアによる、紙芝居、朗読などのおはなし会の実施について研究します。

5 学校図書館支援サービス充実プロジェクト

現状と課題

現状

- ①学校図書館の資料が不十分です。
- ②特に、蔵書構成が読み物中心で、調べるための資料が不足しています。
- ③司書教諭、学校司書などの適正な配置が求められています。
- ④小学校、中学校へ定期的に図書を配送しています。
- ⑤学校、学校図書館関係者からの団体貸出(調べ学習用)の冊数の増加の要望があります。
- ⑥読書ノートが小学3年生から中学3年生まで配布されています。
- ⑦ブックトークの実施の要望が増加しています。
- ⑧5月1か月の平均読書冊数の推移(学校読書調査(全国)) 単位：冊

| | 小学生 | 中学生 | 高校生 |
|-------|------|-----|-----|
| 2016年 | 11.4 | 4.2 | 1.4 |
| 2011年 | 9.9 | 3.7 | 1.8 |
| 2006年 | 9.7 | 2.8 | 1.5 |
| 2001年 | 6.1 | 2.1 | 1.1 |

- ⑨母・父の読書習慣別にみた子どもの読書習慣(21世紀出生児縦断調査(全国))単位：%

| | 母親 | | 父親 | |
|-------|------|------|------|------|
| | 読む | 読まない | 読む | 読まない |
| 2011年 | 92.3 | 82.8 | 92.0 | 84.7 |
| 2008年 | 94.9 | 88.8 | 94.5 | 89.3 |

- ⑩1か月に本を1冊も読まない(国語に関する世論調査(全国)) 単位：%

| | 16～19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70台 |
|-------|--------|------|------|------|------|------|------|
| 2013年 | 42.7 | 40.5 | 45.5 | 40.7 | 44.3 | 47.8 | 59.6 |
| 2008年 | 47.3 | 38.0 | 42.4 | 38.9 | 38.8 | 50.0 | 60.7 |
| 2002年 | 34.8 | 31.3 | 29.6 | 28.5 | 39.0 | 44.4 | 51.3 |

- ⑪「山口県子ども読書活動推進計画 第3次計画」(平成26年3月)が策定されています。
- ⑫学習指導要領が改訂され、学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。

課題

- ①調べ学習に対応できる資料、地域の様子がわかる資料の充実が必要です。また、その資料を保管する場所を整備する必要があります。
- ②子どもの読書活動や調べ学習を支援していく必要があります。
- ③市立図書館の活用が進むよう学習活動への支援が必要です。
- ④学校、学校図書館との意見・交換の場が必要です。
- ⑤読書ノートの成果を発表する場が必要です。
- ⑥ブックトークの実施の需要に対する支援体制の整備が必要です。

目標が達成された姿

小・中学生が、効果的に図書館サービスを活用できています。

目指す方向

調べ学習や学校図書館に対し、実効性のある支援を行います。

成果指標と数値目標

指標1 小・中学校の団体貸出利用冊数(調べ学習用)

| 現状値 | 目標値 | |
|--------|----------------|----------------|
| 平成28年度 | 平成32年度(2020年度) | 平成34年度(2022年度) |
| 2,998冊 | 3,500冊 | 4,000冊 |

サービス・事業の内容

(1) 調べ学習に対する支援

①市立図書館活用オリエンテーション

図書館職員が学校に出向いて、市立図書館の施設の利用や資料の活用の方法を指導します。

②団体貸出

学習活動に必要な図書資料の貸出上限を200冊とするなど、利用しやすい体制を整備します。

調べ学習に対応できる資料、地域の様子がわかる資料を保管する場所を整備します。

③各教科の学習課程についての情報提供

事前に各教科書の内容について情報提供を受け、速やかに資料の提供ができるようにします。

(2) 学校図書館の支援

①技術支援

蔵書の管理方法、読み聞かせや技術指導などの相談に応じ、必要な場合は技術支援を行います。

②図書館運営等に対する相談

学校図書館で解決ができなかったレファレンス課題や選書、図書館運営に関する相談に応じます。

学校図書館の運営等に精通したアドバイザーによる研修や講座を開催します。

③ブックリストの配布

新刊図書案内やテーマごと（環境、食、福祉、仕事、郷土、伝統行事等）のブックリストを作成し、配布します。

④読書ノートの普及支援

子どもの読書週間に合わせたイベントにおいて、読書ノートを達成した児童生徒の成果の発表の場を設けます。

⑤ブックトークボランティアの育成支援

ブックトークのボランティアを育成するために、学校が行う学校図書館ボランティア等を対象としたブックトーク講座の開催を支援します。